

子どもの潰瘍性大腸炎について

監修：国立成育医療研究センター消化器科診療部長
小児炎症性腸疾患センター長 新井勝大

潰瘍性大腸炎とはこんな病気です

潰瘍性大腸炎とは、大腸の粘膜に慢性的な炎症が起きて、潰瘍(皮膚の表面のほうがなくってしまう状態)やびらん(ただれ)ができる病気です。潰瘍性大腸炎の原因はまだ明らかになっていませんが、遺伝的要因と食事や生活習慣などの環境的要因が加わって、腸の免疫機能が過剰に働いてしまっている状態と考えられています。

潰瘍性大腸炎の患者さんは、こんな症状に悩まされます

潰瘍性大腸炎の主な症状は、下痢と血便そして腹痛です。便回数が多くなり、腹痛が強くなるため外出するのも困難になります。腸からの出血が続くと、貧血となることもあります。

潰瘍性大腸炎は、長く付き合う病気です

潰瘍性大腸炎の患者さんは、活動期(炎症が活発で症状が悪化している時期)と寛解期(日常生活に問題がないぐらいに症状が落ち着いている時期)を繰り返すことが多く、現在の医療では完全に治る病気ではなく、寛解期を維持していくために、治療を続けていくことになります。

潰瘍性大腸炎をもっていることができることはたくさんあります

症状が落ち着いているときは、運動や食事に関しても特別な制限はありません。ただし、症状が悪化している時期は、体育や給食などで配慮をお願いすることもあります。



保護者からの声

学校生活全般

- 定期的な診療が必要なため、通院のために学校をお休みもしくは遅刻・早退することがあります。
- トイレの回数がほかの子よりも多く、授業中にも行くことがあるかもしれません。
- 排泄に関して、からかわれることを避けるため、教職員用のトイレを使わせていただくなど配慮をお願いいたします。

体育の授業に関して

- 症状が悪化している時期や退院後などで体力が落ちている時期は、体育を見学させてもらうことがあります。

給食に関して

- 病気の状況により食事制限を要することがあります。
- 必要に応じて給食を残したり弁当を持たせたりするなどの対応をさせてもらうことがあります。

自由記入欄

氏名

緊急連絡先

・ _____ () ☎

・ _____ () ☎

受診している病院

病院名

診療科

☎

(代表もしくは直通)
